題字：住職

ほのぼの

第11号
平成17年
11月

発　行
神戸市須磨区戎町1－2－3
TEL 078－732－5209
信行寺門信徒会

親鸞聖人750回 大遠忌へ
ご門主・ご消息を発布される!!

平成23年４月から24年１月
法要告知の「高札」立礼式

親鸞聖人七百五十回 大遠忌法要について

平成二十四年一月十六日は親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。ご門主のご消息（門信徒へのお手紙）が発布されました。

五十年ごとに勤められる祥月命日の法要を、「遠忌」（おんき）といいます。親鸞聖人の場合浄土真宗を開かれたお方ですので、特別に「大遠忌」（だいおんき）というのです。

聞き馴れない言葉だと思いますが、浄土真宗では、五十年に一度の大法要で、御本山、および全国の各末寺でも勤められるものです。前回の大遠忌は、御本山では昭和三十六年に七百回大遠忌が勤まりましたが、その時の大遠忌法要にお参りになられた方も何人かおいでの事と思います。

この度の七百五十回大遠忌法要は、御本山では来る平成二十三年四月から二十四年一月の報恩講にかけて勤まります。さらに、その前後にかけて、各末寺でも勤められてまいります。

この法要は、五十年に一度の親鸞聖人の御命日、大報恩講ということになります。

親鸞聖人は、旧暦の一二六二年の十一月二十八日、九十年の生涯を終えられてお浄土にお還りになられました。西本願寺では、これを新暦になおして、一月十六日にしております。

わたしたちが、親鸞聖人の御命日に報恩講という法要を勤めさせていただくのは、なぜかといいますと、九十年の生命をつくして、「このわたしを救いとってくださる阿弥陀如来のお慈悲」を明らかにしてくださるために、ご苦労くださった生涯への、報恩感謝のこころを表すためです。

わたしという人間が、この世に生まれたのは非常に希で不思議なことです。

しかも、それは、煩悩に苦しめられて、一生を終えるため人間界に生まれたのではありません。「仏にならせていただくためだ」と聖人は教えてくださいました。

だれでも、「自分は、何のためにこの世に生まれて来たのだろうか」との疑問が生きて行く中で幾度となくわいてきます。これに答えてくださったお方が親鸞聖人です。他には誰もいません。

人間として生まれたからといって、人間になっているとは限りません。阿弥陀如来のお慈悲のこころに抱かれた我が身、我が人生であることを知らせてくださった親鸞聖人の七百五十回忌の勝縁を共にお迎えしましょう。

御本山では着々と大遠忌へ向けての準備が整えられています。御影堂（親鸞聖人の御真影をご安置しているお堂）の瓦もすべてふき替えられ、お内陣も、きらびやかなご彩色が施されました。約二百年ぶりの大修復工事になります。あと、六年後には、見事に修復された御影堂で大遠忌がつとめられるのです。

たのしみにしてお待ち致しましょう。

（ご彩色されたお内陣の柱）

念仏奉仕 15回 谷藤さん受賞

本山念仏奉仕団
「十五回表彰を受けて」

谷藤清子

今年も念仏奉仕団に参加させて頂ける喜びでバスに乗り込みました。

坊守様より「今度の念仏奉仕団十五回表彰は貴女ですよ。表彰状と記念品を頂いて下さい」とのお言葉に、えっ夢かと思い「いや」私一人の十五回ではない、如来様、皆様に支えられ見守られた十五回だと、心の中でつぶやきました。それと云うのも私は長い間喘息と戦い苦しみ喘ぎお寺から遠のいていました。主人はなくなりいろいろなストレスが重なり健康が第一と深く胸に刻まれました。

お蔭で私は信行寺様の近所ですので尊い御院主様のお説教を聴聞させて頂き「定例」「護法会」夜の「仏教講座」「ヨガ」「仏教讃歌」といろいろ参加させて頂き、この様に元気になりお念仏に支えられ「如来様におまかせ」の一日一日を感謝の気持で過ごしています。一人でも多くお寺に足をお運び下さい。私も健康に感謝し又二十回に向って念仏奉仕団に参加できるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

合掌

「親鸞聖人神戸護法会法座」

親鸞聖人のお示しくだされた浄土真宗のご法義を伝え護ることを目的として、毎月、第一日曜日、二時から四時まで、聴聞の例会が開かれています。

（若林　眞人先生の法座の様子）

毎月、三〇～四〇名の方が聴聞されております。「蓮如上人御一代記聞書」のご縁をいただいております。ご法話によっては難しい時もありますが、楽しく聴聞させていただいております。

「定例法座」

（副住職の定例法座の様子）

毎月第三土曜日の午後二時から四時まで定例法座がつとまっています。

ご住職の法話と、副住職による御文章の解説があります。そして全員で大きい声でご文章をご唱和しています。

夏期特別法座に参加して

岩室　多嘉子

八月十七日シーパル須磨にて、夏期特別法座に初めて参加させて頂きました。

何か一言と云われたのですが、私は、仏様の事はあまり深く知りませんので、何を書いて良いのかわかりません。

今まで色々な事を考えたり、悩んだりして不安な毎日を送っていたのですが、今回夏期特別法座においてご住職さまのわかりやすいご法話をおききして、何だか心の依りどころを得たような気持ちになりました。

仏様と一体になると云うのは、本当に素晴らしい事だと思いますが、そこに到るのは、それなりの精進が必要と思います。

これからは自分を無にして一生懸命聴聞させていただきたいとおもいます。どうか宜敷く御導き下さいませ。

また、海の見える部屋で皆様と一緒においしい昼食をいただき幸せでした。

夏期特別法座の昼食の模様

初めて念仏奉仕団に参加して

稲岡康好

信行寺様に仏縁を頂くようになって二年。まだまだ信仰心の薄い私に、坊守さんからお誘いを受け、初めて参加させて頂きました。

ご本山本願寺到着後すぐに清掃しやすい衣服に着替える。皆さん白い割烹着、アッ私はエプロン「どうしよう」「いいのよ心配しないで」とやさしい言葉に「ホッ」としました。当日は全国から三七三名の参加。開会式の後、総御堂前の庭の清掃奉仕、終了後書院にて抹茶を頂き見学。聞法会館にて宿泊、夕食後は御法話を聴聞し初日は終了。

明朝の晨朝参拝を約束して床に着く。寝坊しないようにと思っていたのに「五時十五分よ」の声に、スワッと飛び起き素早い支度で間に合う。一時間の参詣は、若いお坊様方の姿勢正しくキビキビした動作に正座の痛みも忘れるひとときだった。御門主様のご面接、記念撮影など、信仰心厚い皆様に囲まれお蔭様で私も何とか二日間を過ごすことが出来ました。小雨に煙る嵐山にも訪れて、ゆったりでき、感謝しています。

第22回　信行寺念仏奉仕団　平成17年10月7日

仏事の小箱

手で扇ぐ

ある老人会の集いで、その月がお誕生のお年寄りが、卓上のローソクを消すことになりました。

たまたま九十歳に手の届くような老婦人が、その月の生まれでした。その方が進み出て燃えているローソクを消されたのですが、その消し方が変わっていました。

バースデーケーキを思い出していただいたら分かるように、ローソクを消すには、フッと息を吹きつけるのが普通です。でも、その方の方法はそれと違って、手でパタパタと扇がれたのです。

後で本人も言われていましたが、長年、お仏壇のローソクを手で扇いで消されていた習慣が身についてしまって、バースデーのローソクを前にしても、思わず手で扇いでしまわれたのです。

お仏壇のローソクに息を吹きかけず手で扇ぐのは、仏さまに対する礼儀です。手では消しにくいこともあるので、小さなうちわを用いたり、「ローソク消し」という道具を使ったりもします。

いずれにせよ、仏さまのお灯明は口で吹き消すものではありません。きっとこの方も、幼い時、自分のお母さんやおばあさんに、そのように教えられたのでしょう。そして、その行為が九十年近い歳月をかけて身体に染み込んで、バースデーのローソクを見ても、反射的に手が動いてしまったのでしょう。

一見、何気ないことです。けれどもこれは尊いことです。仏さまを大切に生きてこられた年輪の証しが、そこに現れたのです。

人生の重みがキラリと輝いていました。

（御堂さんより）

箱 小 の 事 仏

「自由とは」

住職 米田 睦雄

今年は、終戦から六〇年という節目の年にあたっております。戦後、日本中が「自由」ということばを謳歌してきました。しかし、「自由」が誤って受け取られたままで、六〇年が経過しているような気がします。

つまり、「自由とは、おもいのまま、なにをしても自由だ、勝手だ」と受けとめられ、本来の意味とは異なる理解、かたよった受けとめ方が続いたままできている面が強いような思いがします。

信仰の自由、言論の自由、行動の自由など、いくつも項目はあげられるでしょうが、要は、他人に迷惑をかけないということが、大前提にあります。「わたしの思いのまま」が、「他人の思いのまま」と、ぶつかりあうなら、それは自由とはいえません。

人間は煩悩に縛られて生きています。欲望に振りまわされて生きています。だから、本当の意味での自由はこの世界にはないといえます。他人の目にしばられて、日を過ごしてはいないでしょうか。肩書、財産、名誉などによって、自分の存在を評価していないでしょうか。これらに縛られていますから、自由自在ではありません。

これらの難問を解決してくださるのは、阿弥陀如来の大悲以外にはありません。お念仏を聞き、お念仏の声のなかに無碍という自由の世界を歩みましょう。

思い出の写真から

長井輝子

震災前（平成二年）の信行寺の庫裡で仏具のお磨をさせて頂いている様子です。彼岸会、永代経、報恩講等の法要前には、お内陣の荘厳をお手伝いすることが恒例でした。現在は御住職と寺族の方々がなさっておられますが、本堂の荘厳作業は大へん勿体ないありがたいことでした。お仏具を手にさせて頂くことで身の引きしまる想いをしたものです。各々我が家のお仏壇もたまにはお磨とお荘厳を心掛ける様に致しましょう。合掌

ご案内コーナー

12月17日・18日

報恩講

17日（土）午後2時～
法話　住職

18日（日）午後2時～
法話　羽溪了先生

1月5日
午後1時～

新春初法座

年の始めをご一緒に
お祝いしましょう
法話・住職
（正信偈のおつとめ・会食）

編集後記

この度は「親鸞聖人七百五十回大遠忌」について特集しました。
皆様ともども、六年後の大遠忌法要を元気にお迎えしたいものであります。
なおご門主の「ご消息」につきましては、次号でご紹介します。